

## 特定施設届出地区の 色彩ガイドライン

### 特定施設届出地区の 色彩ガイドラインの考え方

#### 3-1-1 届出の必要な特定施設

幹線道路沿いの景観は、周辺に暮らす県民が日常的に接するもっとも身近な風景であると同時に、さまざまな目的で訪れる来訪者にとって、熊本県のイメージを印象づける窓口になります。こうした、幹線道路の沿道で調和のとれた美しいまちなみをつくるため、次表に示すような特定施設及びこれに附帯する施設の新築、増築、改築、移転、撤去、外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更については、あらかじめその場所を管轄する地域振興局への届出が必要となります。

■表 届出が必要な特定施設

用途	例
風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条第1項第7号及び第8号並びに同条第6項第4号に規定する営業を行うための施設	パチンコ店 まあじゃん店 ゲームセンター モーテル 等
危険物の規制に関する政令第3条第1号に規定する給油取扱所(専ら自家用に供するものを除く。) 広告塔及び広告板 飲食店業を営むための施設	ガソリンスタンド 等  レストラン 喫茶店 等
物品販売業を営むための施設	スーパーマーケット 専門店 等
物品貸付業を営むための施設	レンタルビデオ店 貸自動車業 等
旅館業法第2条第2項又は第3項に規定する営業を行うための施設	ホテル 旅館 等
その他	カラオケボックス 屋上広告

#### 3-1-2 特定施設の届出と手続き

特定施設の手続きは、次のような流れで進められます。

■表 特定施設の届出と手続き

手続き	内容
1 行為の計画	特定施設を計画します。 事前に管轄の地域振興局に相談することもできます。
2 届出書類の提出	管轄の地域振興局に、届出用紙を提出します。 届出用紙は、地域振興局で配布しています。 届出の際には、適用する色彩が明確に判断できる資料を添付してください。
3 知事の指導・勧告	必要に応じ、知事は指導・勧告を行います。
4 他の法令に基づく申請等	建築確認申請など、他の法令に基づく申請を進めてください。

● 範囲

県指定路線

国道3号、旧国道3号の一部  
(県道八代鏡宇土線、宇城市道471号線)、57号、208号、218号、219号、221号、266号、325号、387号、389号、443号、445号、501号の各一部

県道熊本玉名線、熊本益城大津線、熊本大津線、住吉熊本線、人吉インター線、辛川鹿本線バイパス、曲手原水線バイパスの各一部  
都市計画道路八代臨港線、保田窪菊陽線の各一部  
菊陽町道菊陽空港線の一部

熊本市指定路線

国道3号、57号、266号、387号の各一部  
県道住吉熊本線、熊本益城大津線、熊本港線、益城菊陽線の各一部  
都市計画道路新南部四方寄線、熊本駅新外線、保田窪菊陽線の各一部  
市道鹿帰瀬瀬戸島線の一部

山鹿市指定路線

国道3号、325号の各一部

錦町指定路線

国道219号、221号の各一部

※詳細は、パンフレット『特定施設届出地区景観形成ガイドライン』等を参照してください。

3-1-3 特定施設届出地区の範囲

平成20年3月現在、特定施設届出地区として、35路線の沿道が指定されています。

3-1-4 特定施設届出地区の景観形成基準

特定施設届出地区のガイドラインとして、次の表のような基準が設定されています。

この色彩ガイドラインでは、基準のうち、色彩に関わる項目を深く掘り下げて解説しています。下の表では、建築物、工作物等について、「色彩・素材はその地域の基調となるものと合い、隣接相互に調和するものとする。」

広告物について、「できるだけ設置箇所数を少なくし、また、表示面積を小さくするとともにその沿道で統一性のとれたものに努める。」

と記していますが、これにどのような色彩があたりはまるのか、その考え方と具体的に推薦できる色彩の例を、次ページ以降で紹介いたします。

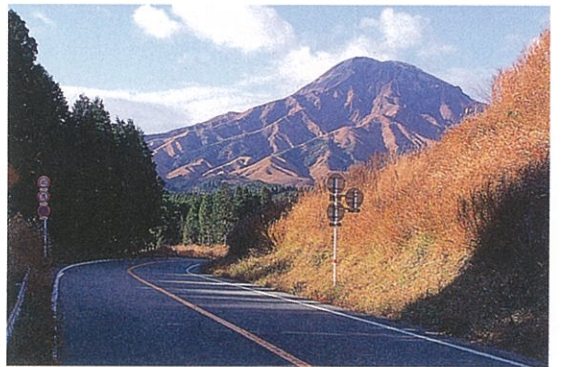
3-1-5 特定施設届出地区の類型

特定施設届出地区は、沿道の土地利用の状況から大きく次の4つの類型にわけられます。

- 1—都市サービス路線
- 2—都市近郊路線
- 3—田園路線
- 4—観光路線



■写真 広告物が乱立する都市サービス路線



■写真 観光路線からの眺望景観

■表 特定施設届出地区の景観形成基準(色彩景観に関わるもの)

事項	基準
特定施設及び 付帯施設の外観 に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○建築物、工作物等については、その形状が整然として、しかも周辺と違和感のないものとする。</li> <li>色彩・素材はその地域の基調となるものと合い、隣接相互に調和するものとする。</li> <li>○外壁・屋上等に設ける設備は、露出しないように努め、本体及び周辺の景観との調和に配慮するものとする。</li> <li>○電飾を含め、壁面の意匠はそれ自体乱雑とならず周辺との調和を乱さないものとする。</li> <li>○広告物については、できるだけ設置箇所数を少なくし、また、表示面積を小さくするとともにその沿道で統一性のとれたものに努める。</li> <li>○色彩については、できるだけ多色使用を避け、沿道の基調となるものに配慮するものとする。</li> </ul>

コラム

CIカラーと景観

企業のイメージと地域のイメージ

近年、様々な業種の企業でCI(コーポレートアイデンティティ)計画が導入されています。

CI計画は企業の理念や視覚表現を統合し、企業のイメージをより明確なものにするという点で、経営戦略上重要な役割を担っています。

特定施設届出地区でよくみられるガソリンスタンドやファーストフード店等のマークや広告塔、外壁などの色彩もCI計画によってコントロールされています。

しかし、CIカラーは、企業イメージを端的に表現する視点か

ら、赤や青、緑などの色味のはっきりした派手な色彩によって構成されるケースがほとんどです。こうした色彩はともすると景観を混乱させる要因にもなりかねません。

CIカラーを用いることによって企業イメージを明確化することは非常に重要ですが、その表現が強くなりすぎると、活動の基盤となる地域のイメージを損ねてしまうことになります。

CIカラーだから変えられないという姿勢ではなく、CI計画の中に込められた理念やデザインポリシーを大切にしながらも、周辺の景観に配慮し、柔軟に対応していく姿勢が、よりよい企業イメージ形成に発展していくものと考えられます。

## 都市サービス路線と都市近郊路線の色彩ガイドライン

### 3-2-1 都市サービス路線について

中心市街地及びその周辺で、活発な都市活動が展開される幹線道路の沿道を都市サービス路線と呼びます。

### 3-2-2 都市サービス路線の景観形成イメージ

統一感と秩序をもった空間—にぎわい、界索性

都市サービス路線は、活気やにぎやかさをもった景観が求められる地区で、沿道建物と道との緊張ある一体感を必要とします。

都市サービス路線では道路から沿道の状態、動きが感じられ、まちの雰囲気を通りいっばいに漂うような界索性を大切にします。

沿道建物は相互の調和に配慮し、通りとしての統一感・秩序感をもった景観としていきます。

### 3-2-3 都市近郊路線について

都市から郊外へ向かう、まちの外縁にあたる市街地周辺の沿道を都市近郊路線と呼びます。

### 3-2-4 都市近郊路線の景観形成イメージ

まちへの入口にふさわしい地域らしい空間

—活力、スケール感

まちから自然へ、自然からまちへと変わっていく景観の中間的な空間であり、一般にはまちへの入口部分として感じとられています。

都市近郊路線は、まちのスケール、特徴を感じさせる地区でもあることから、落ちつきとリズム感があるしっかりとしたまちなみをつくっていきます。

### 3-2-5 都市サービス路線と都市近郊路線の建築物等の色彩ガイドライン

鮮明色を基調色に使用することは避けよう

都市サービス路線と都市近郊路線では、都市の中心部や都市の入口としてのにぎわいや活力が感じられることが必要です。

そのため、落ちつきの中にも華やかさのある色使いが展開できるように配慮し、次の表のような色彩ガイドラインを設定しています。

この色彩ガイドラインによって、外壁の基調色として赤や黄色、青などの鮮明色を用いることはできなくなりますが、比較的色味のある色彩を使って、華やかな色彩デザインを行うことは十分に可能です。

隣の建物と色相・トーンをあわせよう


隣り合う建物の色の差が極端に大きくなると、混乱した色彩景観になりかねません。

華やかさの中にもまちなみとしての共通イメージや品格が保たれるように、両隣の建物と色相かトーンのいずれか、あるいは両方を合わせるようにしてください。

色使いはシンプルにまとめよう

都市サービス路線と都市近郊路線の色彩ガイドラインは、色彩の選択肢が広いのが特徴といえますが、これらの色彩を使って調和感を得るためには、建物や広告物の配色をシンプルにまとめ、建築物と広告物の色彩に共通性をもたせるなどの工夫が必要になります。

■表 都市サービス路線と都市近郊路線の建築物等の外壁基調色の色彩ガイドライン

路線	色彩ガイドライン	避けた方がよいトーン(●)
都市サービス 都市近郊	次の色彩を外壁の基調色とすることは避けること。 R(赤)、YR(黄赤)系の色相—彩度6を超える色彩 Y(黄)系の色相—彩度4を超える色彩 その他の色相—彩度2を超える色彩	鮮明色 

※1—表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。

※2—各トーンの色相の範囲は、19ページの一覧表を参照して下さい。

※3—各路線の推薦トーンは58ページを参照して下さい。



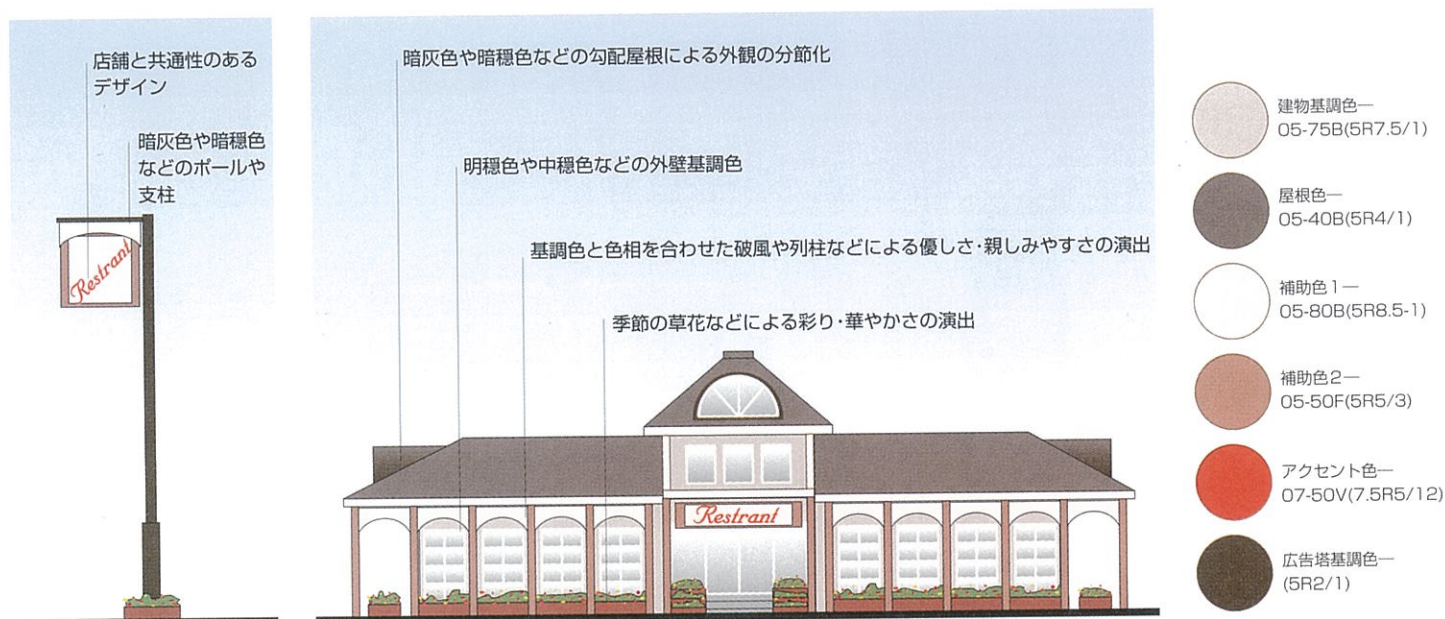
都市サービス路線や都市近郊路線沿いの飲食施設には、チェーン展開によって共通の部材や色彩を用いているものも少なくありません。

こうしたチェーン店の場合でも、基本的には建物の建つ敷地の環境に鑑み、外観を構成していく必要があります。

外壁の基調色は明穏色や中穏色とし、店名表示や季節の草花などで彩りを添えます。

また、灰色や暗穏色などの勾配屋根をとりつけるなどして、外観が単調にならないような工夫も考えられます。

広告物は店舗のデザインと共通性をもたせ、ポールなどの色彩は暗灰色や暗穏色を基調とします。



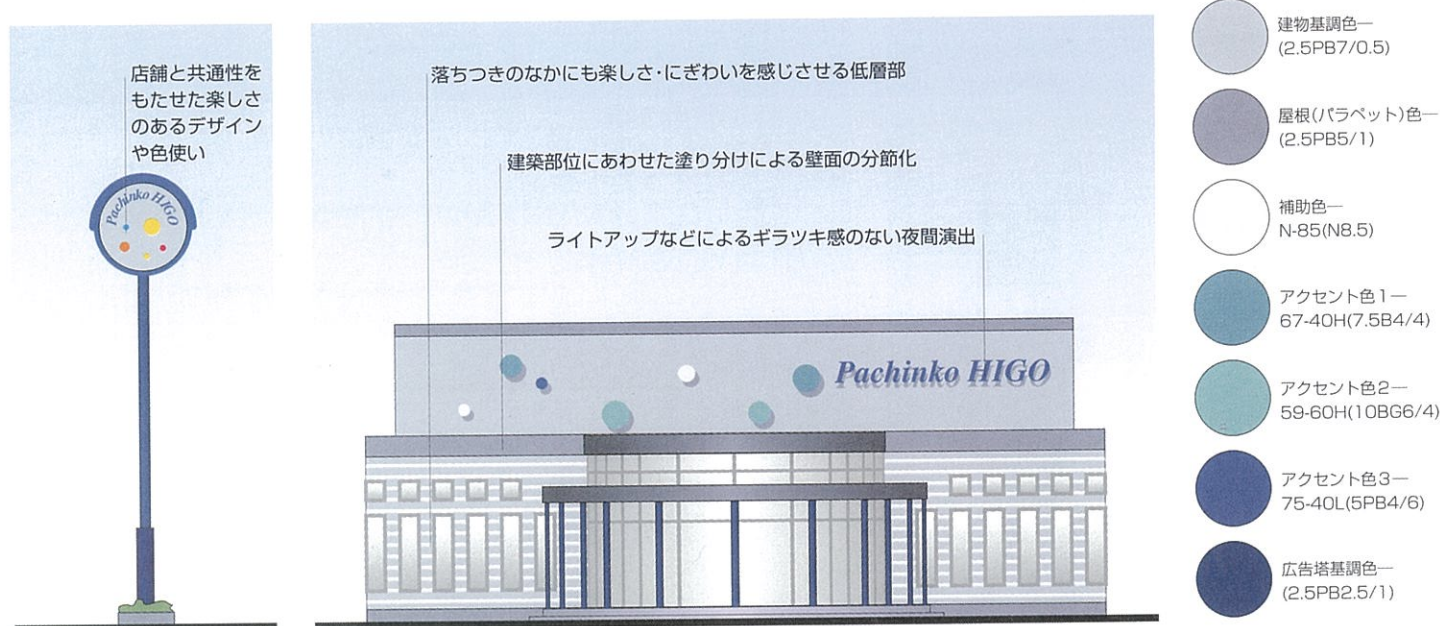
■図 都市サービス路線と都市近郊路線の色彩設計例—飲食施設

パチンコ店は外壁の面積が大きく、通りを通る人に威圧感を与えがちです。

また、色光を発するネオンサインなどは、落ちつきのある景観を乱すばかりでなく、夜間の信号の識別などにも影響を与えます。

目立つことが集客要因の一つになっていることは否めませんが、競合店がこぞって派手な演出を取り入れていくと、周辺の景観は乱れるばかりです。

一方、近年では、落ちつきのある質の高い建材を使ったり、ネオンサインではなくライトアップで夜間演出するなどの新しいタイプのパチンコ店も整備されてきています。



■図 都市サービス路線と都市近郊路線の色彩設計例—パチンコ店

## 田園路線と観光路線の 色彩ガイドライン

### 3-3-1 田園路線について

自然地、田園の背景を主体にした開放的な沿道を田園路線と呼びます。

### 3-3-2 田園路線の景観形成イメージ

自然と共存した全体のまとまりを重視した空間  
—開放感、自然美

沿道の緑や自然景観が身近に感じられ、自然にとけ込んだまちなみが求められます。

田園路線では、広がりのある田畑、美しくすがすがしい緑を損なうことがないように、沿道景観の保全を図っていきます。

道路から山のスカイライン、海への眺望といった特徴ある視界を遮ることを最小限に抑え、自然に調和した沿道景観をつくっていきます。

### 3-3-3 観光路線について

観光地区の中心又はそのアプローチとなる沿道を観光路線と呼びます。

### 3-3-4 観光路線の景観形成イメージ

自然にとけ込み原風景を残した空間  
—身近な美しい自然

観光地は、魅力ある風景、施設を有する地区ですから、これらが醸し出す地域イメージを育てていくことが求められます。

観光路線では、風光明媚な自然景観を背景とした道路空間の美観を守っていくことが必要になります。

雄大な眺望、風景によって多くの人々に感動を与え、県民が誇りを感じることができるよう、人工的要素は極力抑えていきます。

### 3-3-5 田園路線と観光路線の建築物等の色彩ガイドライン

自然に近い場所では自然に近い色彩を選ぼう

田園路線と観光路線では、沿道の魅力ある風景や施設のイメージを損なうことのないよう、それらの色彩よりも彩度の低い色彩を用いたり、対比の少ない似かよった色彩を用いるなど、鎮静的な色使いを行うことが必要です。

色彩ガイドラインによって、明清色、暗清色、鮮明色を基調色として使用することはできなくなり、全体的には、元からそこにあった自然そのままの姿の中に、建築物や工作物等がとけ込んでいくような色彩を基調とした色彩景観を目指すこととなります。

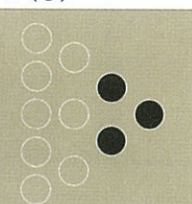
広告物は数や面積を控え、

必要な情報だけを伝えるようにしよう

広告物には色味の強い鮮明色が用いられることが多いことから、場合によっては、建築物以上に自然の風景を損なうことになりかねません。田園路線や観光路線では、色彩を考える前に、その広告物が本当に必要かどうかを考え、数や面積を必要最小限に止めるようにしましょう。広告物を設置する際には、基調色の鮮やかさを抑え、文字要素だけに明るい色や鮮やかな色を用いるなどの工夫によって、風景を損なうことなく、必要な情報を伝えるように工夫しましょう。

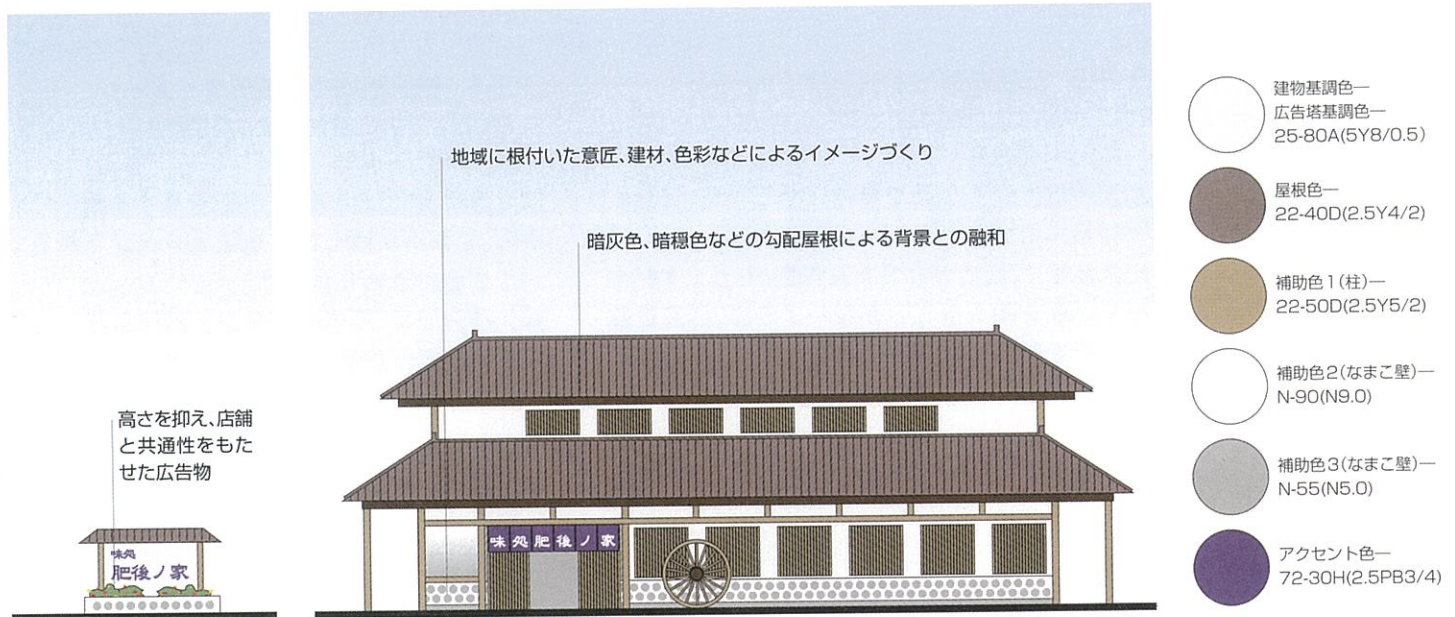
※1—表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。  
※2—各トーンの色相の範囲は、19ページの一覧表を参照してください。  
※3—各路線の推薦トーンは58ページを参照してください。

■表 田園路線と観光路線の建築物等の色彩ガイドライン

路線	色彩ガイドライン	避けた方がよいトーン(●)
田園 観光	次の色彩を外壁の基調色とすることは避けること。 R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)系の色相—彩度3を超える色彩 その他の色相—彩度1を超える色彩	鮮明色 

## 田園路線と観光路線の 対象別色彩設計例

田園・観光路線沿い飲食施設は、観光の対象となっている自然や施設のイメージを損なわないような色彩とします。地域に伝わる建材やそれを組み合わせた配色などを用いて積極的に地域性をアピールすることも重要です。また、景勝地の景観を広告物が塞いでしまうことがないように、大規模な広告物の掲出は避け、ドライバーの視線レベルに店舗と共通性のある背の低い広告物を設置するようにします。



■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—飲食施設

田園・観光路線沿いのガソリンスタンドは、観光の対象となっている自然景観や施設などとの対比の少ない色彩を基調とし、デザインも周囲の景観になじみやすいものとします。キャノピーに勾配屋根をつけたり、柱や防火壁などにタイルや石材などを貼り、より自然な外観になるよう工夫している例も見られます。こうした材料に、地域特産の石材などを用いることも考えられます。塔状の広告物は、暗稷色の額縁をつけるなどして、CIカラーの強い色彩が入る面積を抑え、料金表示などの情報は集約化し、のぼりなどの掲出を避けるようにします。

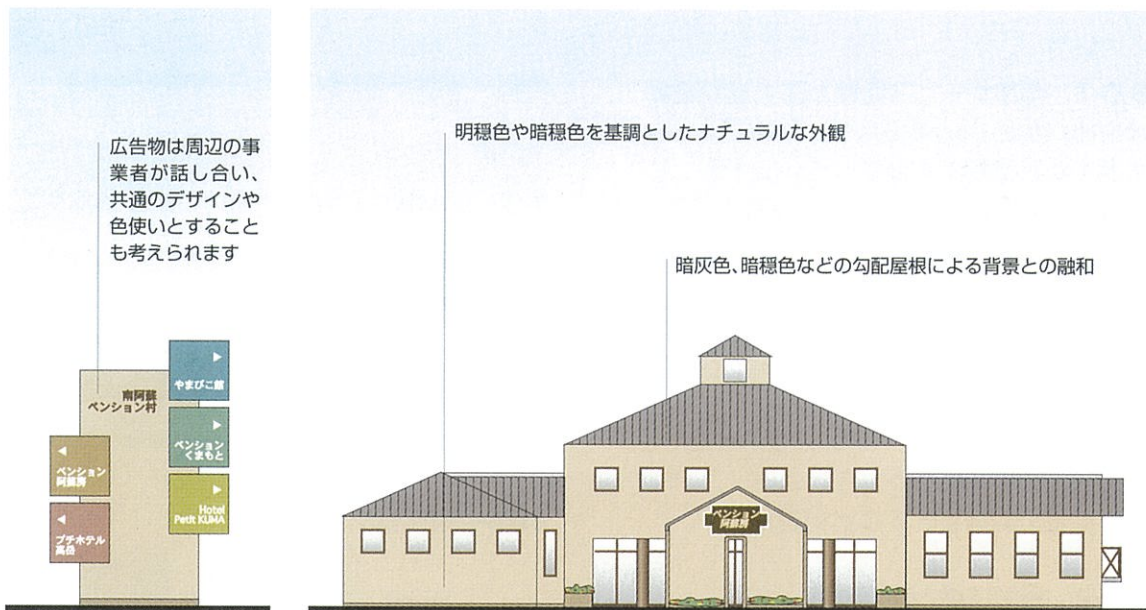


■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—ガソリンスタンド

田園・観光路線沿いには、多くの旅館やペンションなどの宿泊施設が集積しています。個々の施設の色彩は他の施設と同様に、明穏色や中穏色などを基調とし、観光の対象となっている優れた景観を妨げないように配慮します。

旅館やペンションが集積している旅館街やペンション街などでは、個々の施設の色彩ばかりでなく、周辺の宿泊施設の事業者が協定を結ぶなどして、類似色を基調としたり、色相やトーンをそろえたりすることによって、質の高い観光拠点としてのイメージづくりを進めていくことも考えられます。

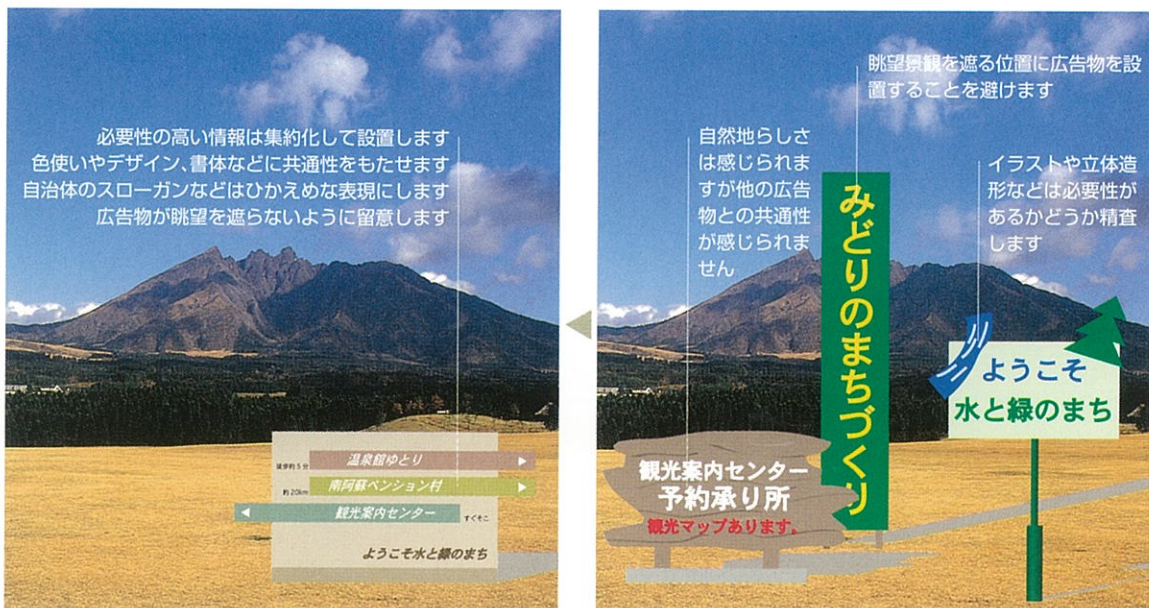
- 建物基調色— 19-70C(10YR7/1.5)
- 屋根色— 22-50B(2.5Y5/1)
- 補助色— 22-50D(2.5Y5/2)
- サイン色1— 57-50H(7.5BG5/4)
- サイン色2— 45-50H(5G5/4)
- サイン色3— (10Y6/4)
- サイン色4— 22-50H(2.5Y5/4)
- サイン色5— 05-50F(5R5/3)



■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—旅館・ペンション等

田園・観光路線沿いには、自家用広告を除いて、必要性の低い広告物は掲出ししないようにすることが基本といえます。現状では、個々の施設や自治体が作成した広告物が無秩序に設置されている例も少なくありませんが、こうした広告物は、必要性の有無を精査し、必要なものは集約化するなどして、景観の妨げにならないように配慮します。また、必要なくなった広告物は速やかに撤去し、同じ場所に複数の大きさや色使いのサインが混在して、混乱を招くことがないように注意します。

- 基調色— 19-70C(10YR7/1.5)
- 補助色— 22-50D(2.5Y5/2)
- サイン色1— 05-50F(5R5/3)
- サイン色2— (10Y6/4)
- サイン色3— 45-50H(5G5/4)
- 文字色1— N-95(N9.5)
- 文字色2— N-20(N2.0)



■ 田園路線と観光路線の色彩設計例—広告塔・広告板



## 特定施設届出地区の色彩の考え方と推薦基調色

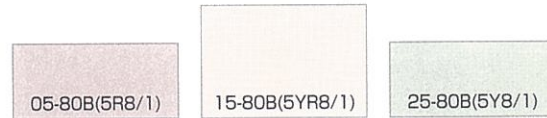
路線別、対象別の色彩設計例でも示したとおり、特定施設届出地区の建物の基調色は、無彩色や明穏色、中穏色、暗穏色などが基本です。しかし、一つひとつの建物の色彩は、周辺環境を考慮して設計していく必要があります。ここでは、色彩設計を進める際にその拠り所となる周辺の景観と、それにふさわしい基調色の考え方を整理します。

※各トーンの色相の範囲は、19ページの一覧表を参照して下さい。

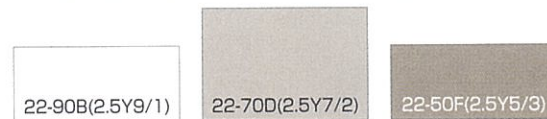
### 3-6-1 都市サービス路線と都市近郊路線

都市部の路線では、建築物や工作物をはじめ、さまざまな景観要素が混在しています。これらの色彩に秩序をもたせ、連続性のあるまちなみを形成していくことが、都市部の路線に建つ建物の色彩の課題といえます。都市部では、両隣の建物の色彩を意識し、その中間にある色彩を用いることも、連続性をつくるひとつの手法になります。いずれにしても、現状であまり使われていない暗すぎる色彩や鮮やかな色彩は避け、穏やかな低彩度色を基調とすることが基本です。

隣接する建物の中間の色相を使って連続性をもたせる



隣接する建物の中間のトーンを使って連続性をもたせる



推薦トーン(O)



■ 図 都市サービス路線と都市近郊路線の建物の色彩の考え方と推薦トーン

### 3-6-2 田園路線と観光路線

田園路線や観光路線では周辺の自然に脅威を与えないように、周囲の自然と同化するような基調色を選択することが基本です。

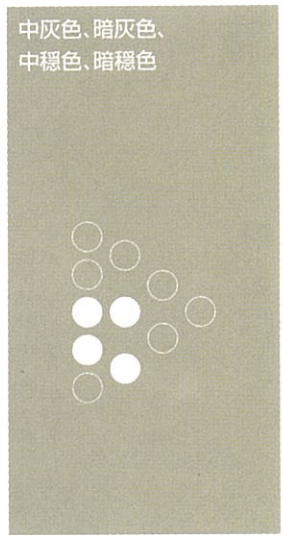
#### ●山間部

山間部の樹林や山はだが背景となる景観では、無彩色や低彩度色が基本ですが、明度が高くなりすぎると、やや暗く、落ちついた色調が主体の山の風景から突出してしまいます。深い緑の中では、建物の基調色として多く用いられている白なども、対比的な色彩のひとつに挙げられます。山間部の建物は、背景である樹林や山はだに近い、中穏色や暗穏色を基調とすることをおすすめします。

山間部の建物の推薦基調色 — やや暗めの穏やかな色



推薦トーン(O)



■ 図 田園路線と観光路線(山間部)の建物の推薦トーンと推薦基調色

#### ●海浜部

海浜部の明るい空や海が背景となる景観では、無彩色や低彩度色が基本であることには変わりはありませんが、山間部よりやや明るめの色彩を基調とするのが自然といえます。逆に海浜部では暗い色彩が開放的な景観を遮断する要因にもなりかねません。海浜部の建物は、明るく開放感のある白や明灰色、明穏色などを基調とすることをおすすめします。

海浜部の建物の推薦基調色 — 明るく穏やかな色



推薦トーン(O)



■ 図 田園路線と観光路線(海浜部)の建物の推薦トーンと推薦基調色